

中学生、高校生の ワクチンで防げる 感染症対策ブック

VPDを知っていますか。VPDとは、ワクチンで防げる病気のこと。

子どもだけでなく、中学生や高校生にも、VPDがあります。

充実した学生生活を安心して送るために、VPDを予防しましょう。



<https://www.know-vpd.jp/>

監修: NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会

VPDとは、ワクチンで防げる病気のこと。

中学生や高校生がかかると

重症になりやすいVPDや

この年代から感染しやすくなる

VPDがあります。

感染力が強く、かかると重症化して
入院や死亡のリスクがある

- 麻しん（はしか）
- 風しん
- 水痘（みずぼうそう）
- おたふくかぜ
- インフルエンザ

中学生、高校生の
VPD

将来のがんの原因となる

- B型肝炎（肝臓がん）
- HPV感染症（子宮けいがん）

学生寮や合宿所などの集団生活で
かかりやすく、命に関わることもある

- 髄膜炎菌感染症

母子健康手帳でワクチンの接種回数を確認して 未接種のワクチンは、できるだけ早く受けましょう。

各ワクチンの接種済の回数を確認しておきましょう。

VPD名	ワクチン名	接種回数
●未接種の場合の受け方		
麻しん(はしか)	MRワクチン または 麻しんワクチン	2回
●1回目から4週あけて2回目を接種。		
風しん	MRワクチン または 風しんワクチン	2回
●1回目から4週あけて2回目を接種。		
水痘(みずぼうそう)	水痘ワクチン	2回
●13歳以上:1回目から4週あけて2回目を接種。 ●13歳未満:1回目から3か月あけて2回目を接種。		
おたふくかぜ	おたふくかぜワクチン	2回
●1回目から4週あけて2回目を接種。		
インフルエンザ	インフルエンザワクチン	1回 または 2回
●13歳以上:1回接種。 ●13歳未満:1回目から4週(2-4週)あけて2回目を接種。		
B型肝炎	B型肝炎ワクチン	3回
●1回目から4週あけて2回目、2回目から16-20週あけて3回目(1回目から20-24週あけて3回目)を接種。		
HPV感染症	HPVワクチン	3回
●2価ワクチン:1回目から1か月あけて2回目、1回目から6か月あけて3回目を接種。接種対象:10歳以上の女子 ●4価ワクチン:1回目から2か月あけて2回目、1回目から6か月あけて3回目を接種。接種対象:9歳以上の男女 ●9価ワクチン:1回目から2か月あけて2回目、1回目から6か月あけて3回目を接種。接種対象:9歳以上の女子 ※どちらのワクチンとも接種間隔を短縮することもできます。		
髄膜炎菌感染症	髄膜炎菌ワクチン	1回
●1回接種。		

感染力が強く、ワクチン未接種だとかかりやすいVPD。

ワクチン接種で、 未来の自分と家族を守りましょう。

■ ワクチン名

麻しん(はしか)

MR(麻しん風しん混合)

- 空気感染し、感染力がきわめて強い。
- ワクチン未接種の場合、感染するとほぼ100%発症する。
- 思春期以降は重症化して入院治療が必要。

風しん

MR(麻しん風しん混合)

- 飛沫感染。感染力は強いが、症状は比較的軽い。
- 感染しても症状が現れず、知らないうちに人にうつすことがある。
- 妊娠初期の感染は、先天性風しん症候群(CRS)のリスクが高い。



妊娠出産年代の前に、ワクチン接種で予防

妊娠中にVPDにかかると、妊婦さんだけでなくおなかの赤ちゃんに影響することがあります。妊娠初期の風しんは、目や耳、心臓などに生まれつきの障害がある先天性風しん症候群(CRS)の原因になります。妊娠中に麻しんにかかると、妊婦自身の死亡や流産・早産のリスクが高まります。どちらもMRワクチンで予防できますが、妊娠中には受けられません。妊娠出産年代になる前に、男女ともにMRワクチンを接種しておきましょう。

ワクチンの接種率が低いために流行するVPD。
中高生は、重症化して入院治療が必要なことがあります。

**未接種の人は、
かかる前にできるだけ早く予防しましょう。**

ワクチン名

水痘(みずぼうそう)

水痘

- 空気感染し、感染力がきわめて強い。
- 思春期以降は、重症化しやすく入院リスクが高い。
- 基礎疾患があると重症化して死亡することもある。
- 水痘が治っても、将来、帯状疱疹を発症するリスクがある。

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)

おたふくかぜ

- 接触、飛沫感染。感染力が強い。
- 感染しても症状が現れず、知らないうちに人にうつすことがある。
- 思春期以降は、無菌性髄膜炎や精巣炎・卵巣炎などの合併症リスクが高い。
- 後遺症として一生治らない難聴を残すことがある。

インフルエンザ

インフルエンザ

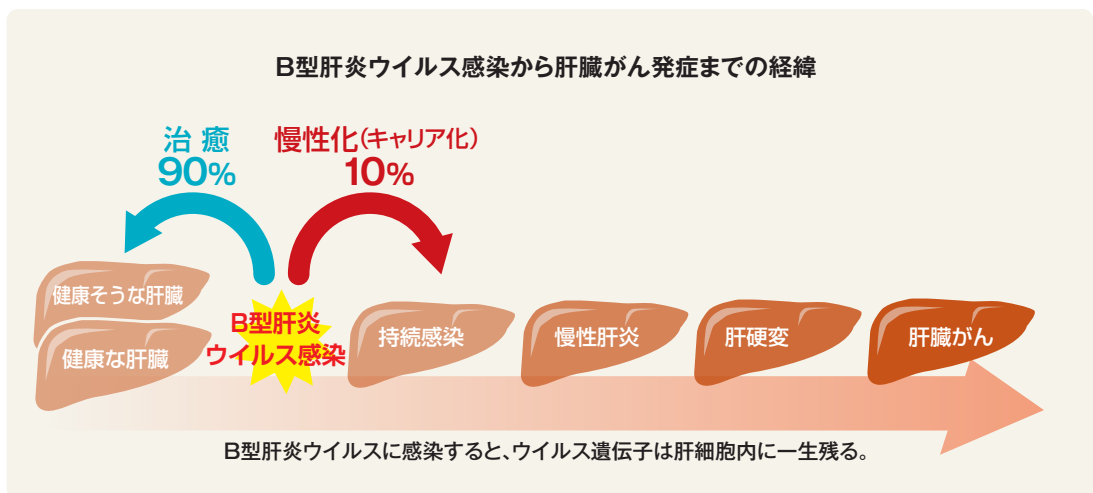
- 接触、飛沫感染。感染力が強い。
- A型とB型があり、冬季に流行する。
- 学校内で流行し、学級閉鎖になることもある。
- 学童以上の年代でかかると、暴れたり、飛び降りるなどの異常行動がおこることがある。

B型肝炎とHPV感染症は、がんにつながるVPD。

**将来のがんは、
ワクチンで予防しましょう。**

B型肝炎(急性肝炎、慢性肝炎)、肝硬変、肝臓がん

- 日本で年間約1万人がB型肝炎ウイルスに感染する。
- B型肝炎ウイルスは、感染者の血液や唾液など体液との接触や性交渉で感染する。
- B型肝炎は、肝硬変や肝臓がんを引き起こす原因になる。
- 急性肝炎の一部は劇症肝炎で重症化する。

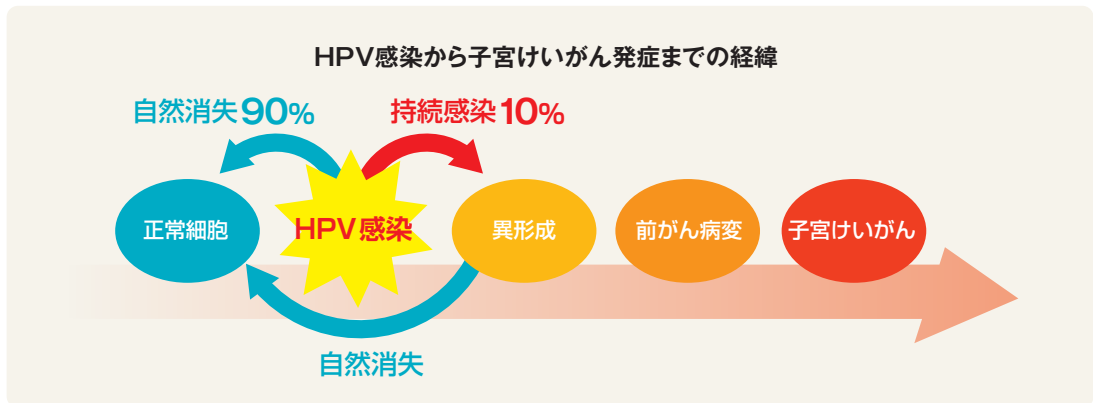


B型肝炎ワクチン

- B型肝炎ウイルスの感染を予防する。
- 2016年から0歳児を対象に定期接種化。

HPV(ヒトパピローマウイルス)感染症、子宮けいがん

- HPVに持続感染すると子宮けいがんになりやすくなる。
- 子宮けいがんが進行すると子宮摘出や死亡につながる。
- HPVは性交渉で感染し、女性のうち約8割が知らないうちに感染。
- 検診で子宮けいがんを早期に発見し、治療しても、早産・流産リスクが高まる。
- 子宮けいがんは20代から40代の女性に多く、発症のピークは30代後半。
- 子宮けいがんは年間約1万人が発症、約3000人が死亡している。



HPV ワクチン

- HPV感染症を予防。
- 性交渉年代になる前にワクチン接種。
- 小学校6年生から高校1年までは定期接種。
- 高校2年生以上は、2025年3月末まではキャッチアップ接種で無料で受けられる。

接種機会を逃した人のキャッチアップ接種

HPVワクチンの積極的な勧奨接種が中止された期間に定期接種の対象だった高校2年生以上の女子は、2025年3月までの間、HPVワクチンを無料で受けられます。接種回数が3回に満たない場合は、不足回数分を受けられます。

髄膜炎菌感染症は急激に悪化して命に関わるVPD。

学生寮や運動部の合宿所などで集団生活を始める人は
ワクチンで予防しましょう。

髄膜炎菌感染症

- 髄膜炎菌が原因で起こる全身性の感染症。
- 最初のかぜに似た症状で診断が難しいが、急激に悪化して発症から24時間以内に死に至ることがある。
- 15～19歳で感染のリスクが高くなる。
- 集団生活やコップなどの共有が感染リスクとなり、国内の学生寮で死亡例が報告されている。



髄膜炎菌ワクチン

- 学生寮や運動部の寮などで集団生活を始める前に接種。
- 海外留学時にワクチン接種が必要な国や地域がある。
※アメリカ、オーストラリア、カナダ、イギリスでは、過去の流行などから思春期にワクチン接種を推奨しています。
渡航前の接種をおすすめします。(2018年10月時点)

くわしくは「大人の VPD」

<https://otona.know-vpd.jp/>

オトナの VPD

検索

